

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

.理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

.サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。

各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに を付け、適宜その内容を記入すること。

「取組みの事実」は必ず記入すること。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。

(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。

関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名

グループホームむく

(ユニット名)

2階

記入者(管理者)

氏名

上村 麻左美

評価完了日

平成 19 年 5 月 31 日

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価)		
			ミーティングで運営方針への理解を深め、皆で取り組める理念をBS法で再構築した。		具体的行動指針も考えたが、これからも考える機会を定期的に設けていく。
			(外部評価)		
			「笑顔で接することで利用者もご家族も地域の方も笑顔になること」を事業所全体で目指していきたいと話しておられた。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価)		
			新人スタッフには、最初に必ず理念を伝えている。また、スタッフルームにも掲げ、いつも皆の目につくようにしている。		実践の確認手段が曖昧なので、日々の中でも意識が持てるよう、リーダーを中心に働きかけていく必要がある。
			(外部評価)		
			理念について職員は、共有しておられるが、日々実践につなげることはこれからの取り組みと考えておられた。		管理者は、地域密着型サービス事業所の意義について、日々実践を通じて職員に伝えていきたいと考えておられた。
3		家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価)		
			家族会や地域運営推進会議の時などで、理念の大切さや作られるまでの経過、スタッフの思いも含めお伝えしている。		地域への広報の作成にも取り組んでいきたい。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) お菓子を作り配ったり、年賀状やいもたき会などの招待状を出し、参加して下さっている。また、近くの農家から野菜をいただいたり、近所の方が話をしに立ち寄られたりしている。		特定の人だけでなく、幅広い年齢の方に行き来してもらえるような場所にしたい。
5	3	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 地区の文化祭や盆踊りなど利用者と共にできる限り参加している。クリスマス会では地区の子ども会を招待し楽しんだり、お祭りのおみこしや亥の子などの時には交流している。 (外部評価) 近所の方が畑を手伝ってくださったり、野菜を届けてくださることもある。事業所の夏祭りや芋炊きに招待する等、近所の方達と交流する機会が増えてきている。地域のボランティアの方も受け入れておられる。		利用者と共にできる限り奉仕活動など地域に貢献できることへの参加もしていきたい。 地域の方に事業所のことをさらに理解いただくために、広報誌を作成中であった。
6		事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議で実践報告をし、色々な内容について話し合えるような場を作っている。(事例報告や排泄、食事に関しての取り組みなど)		私たちが何か地域に還元できることはないか考えていく必要がある。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 自己評価を全員で行い、自分たちのケアの振り返りを行っているが、全員が意義の理解までできているとは言い難い。 (外部評価) 自己評価の意義について、職員全員で勉強をされた。それぞれの職員が自己評価に取り組み、管理者が取りまとめ、作成された。毎年、外部評価の結果を受けて改善計画を作成し、優先順位を付けて、事業所のさらなる質の向上に向けて取り組まれている。		改善計画書を作成しきちんと計画的に取り組みたい。(月ごとの目標を決めるなど)

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価)		
			毎回色々な利用者に参加してもらった。ケアを向上させる為の取り組みを、現場で使用している書類等を基に報告し意見をもらうようにしている。		色々なご家族、利用者に参加してもらい、意見が聞けるようアプローチしていく。
9	6	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(外部評価)		
			事業所からテーマや資料を提供し、報告した内容について意見を出していただいている。2階の椅子の音が気になるという報告については、ご家族から椅子の足にカバーを付ける事について提案があり、実行されていた。		
10		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価)		
			管理者はできる限り研修に出席している。また、市が行う事業などには、積極的に協力している。又、地域包括支援センターの職員と運営推進会議を通じて、関係作りを行っている。		今後、成年後見人制度を利用したほうがよいと思われる方ができるかもしれないので、地域包括支援センターへ行き来する機会を増やしたい。
11		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(外部評価)		
			包括支援センターの研修に参加されている。市職員の研修の受け入れをされている。法人の福祉事業部部長は、認知症ケアの講師をされており、県内外の認知症ケアの向上に貢献されている。		勉強会に全員が参加できない時は2回に分けたり、個別にしていくなど配慮していく。一度勉強しても忘れてたりするので定期的に行う。
			(自己評価)		
			勉強会を行っているが、時間の都合がつかず参加できないスタッフもいる。		
			虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている		
			勉強会を行ったが、時間の都合がつかず参加できないスタッフもいる。研修の資料や新聞の切り抜きをスタッフルームに掲示したりして、全スタッフが目を通すようにはしている。また、リーダー研修を通して勉強する機会がある。		虐待防止のコンプライアンスルールを全スタッフで話し合い、勉強しながら自分たちで作り上げていく。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 十分な時間をとって説明している。契約の時には事業所のケアに対する考え方や取り組みを説明している。解約の場合は、家族や利用者の話をよく聞き、誠実に対応している。		
13		運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 一ヶ月に一回「寄り合い」を開き、利用者同士が意見を出し合える場を設けている。それをノートに記録し、全スタッフが目を通し、日頃のケアに活かしている。(浴室の手すりやお寿司を食べに行きたいなど)		
14	7	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 面会時には日々の暮らしぶりを報告し、遠方の方には定期的に手紙を書いたり、「むくだより」を送ったり、個々に合わせた対応をしている。また、異常があった場合は、その都度電話連絡しお伝えしている。		
15	8	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族会を通じて意見を聞くようにしている。アンケートも実施してみたこともある。また理念にも「日頃のお付き合いを大切に」と掲げ、家族などが意見を言いやすい関係作りに努めている。		皆の前ではなかなか意見しにくい方もいると思うので、個々のかかわりを大切に会話の中での思いのくみ取りを丁寧に行っていく。 「事業所に任せます」と言われるご家族等からの意見をどのように引き出していくか、ということについて、今後も検討を重ねていかれることを考えておられた。
			(外部評価) ご家族の来訪時と、年2回の家族会で意見を聴くようにされている。事業所で、ご家族に向けてアンケートを実施し、ケア等についての意見を引き出す取り組みをされている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月一回はミーティングを実施している。また、一年に数回は個別に面談を通して話す機会がある。		
17		柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 必要に応じてリーダーを中心に対応している。また、変動に対し、どの職員もできるかぎり協力してくれている。		
18	9	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 普段から一階二階関係なく外出や買い物など交流する機会を作っており、スタッフも利用者も馴染みの関係作りに努めている。時に異動がある。また、離職者がいた場合はその後の利用者や家族のフォローを気にかけるようにしている。 (外部評価) ユニット同士、日頃から行き来があり、系列の事業所とも年間行事等を通じて交流がある。職員が異動となった場合でも利用者への影響は少なくなるよう配慮されている。		長く続けてもらうためにも、日頃からの関係作りを大切にし、リーダーと話す機会をきちんと設けていく。
5. 人材の育成と支援					
19	10	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 事業所内、外の研修、勉強会、他グループホームへの研修など、スタッフのレベルに応じて幅広くできている。スタッフには、OJTを活用し面談したりもしている。 (外部評価) 採用時には、福祉事業部長がケアの基本についてお話をされている。職員は、勉強したい内容について勉強会を自主的に行っておられる。		引き続き、できるかぎり研修には参加したり、グループホームへの研修や交流をすすめていきたい。また、OJTが活かしきれていないので、きちんと評価し、助言やアドバイスをしていくことが大切である。 管理者、職員とも「現状に満足することなく」という意識のもと、さらなるスキルアップを目指しておられる。事業所のさらなる質の向上に向けて、取り組みを続けていかれることが期待される。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価)		
			運営者はグループホーム連絡協議会の事務局長をしており、幅広く活動を行っている。 また、管理者をはじめスタッフが相互評価に参加したりしてネットワークが以前より広がってきている。		市が呼びかける地域同業者との交流の場には、スタッフはできる限り積極的に参加していく。
			(外部評価)		
			相互評価を実施し、他の事業所の取組みを知り、事業所の日々の取組みを振り返られた。		
21		職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価)		
			面談を行い話をしたり、年に数回親睦会を開いている。個々のスタッフの性格を踏まえ対応はしているが、中にはうまくストレスを軽減できていないスタッフもいるかもしれない。		日頃の勤務態度や様子を見ながら、必要に応じフォローしていく。
22		向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価)		
			定期的に面談を行い、個々の気持ちを理解し、前向きに働けるように努めている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価)		
			見学の際には、ご本人が落ち着いて気持ちが話せるような雰囲気作りに努め、よく話を聞き、理解するように努めている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
24		初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 家族の状況を知ることで困っていることや求めていることを知り、こちらの力になりたいと思っている気持ちを伝え、関係を築けるよう努めている。		
25		初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人や家族の希望を聞き、様々な選択肢を一緒に考えるよう努めている。		
26	12	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 本人や家族から今までの生活暦や生活習慣をできる限り聞くようにしている。 また、入居の日はできるだけ家族も共に過ごしてもらえるようにし、ご本人の気持ちの安心し、和むように努めている。		
			(外部評価) ご本人が事業所の見学に来られないような場合には、ご家族が事業所の生活の様子を写真に撮り、ご本人に雰囲気等を見てもらったというような事例もあった。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 料理や昔のならわし(年中行事)を一緒に行うことで、お互いに学んだり興味がわいたり、助け合う雰囲気作りに取り組んでいる		
			(外部評価) 昔からの慣わしを、利用者に教えてもらっている。節分の「いわし」や「かぶと」を一緒に飾られた。「物を大切にすること」は、利用者から教わることが多い。農業をされていた利用者に教わりながら野菜を育てておられた。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族参加の行事を計画し、共に過ごしている。 また、本人の状態の変化については、お互いの意見を話し合ったり、手伝ってもらったりという本人中心においた関係作りに努めている。		行事だけではない、教えてもらったり、一緒に過ごせる工夫をしていきたい。(料理や外出など)
29		本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 本人や家族、双方の気持ちや希望を聞き、面会の場所や雰囲気作りなど気を配っている。 また、遠方の家族ができる限り本人と共に過ごせるように宿泊してもらえ環境を整えている。		
30		馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 遠方の家族との関係を保つために、電話や手紙を使い、定期的に連絡が取れるように支援している。		いつもむくに来てもらうだけでなく、たまには出向いていく支援についても考えていきたい。
31		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 利用者同士の会話を見守り、雰囲気をみて間に入ったり。関係が作れるように支援している。 また、仲の良い利用者同士が居室を行き来できるように配慮もしている。		
32		関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 行事参加への声かけをしたり、季節のお葉書を送ったりしている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
33	14	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の暮らしの中で、さりげなく思いや意向を聞いている。また、それをケアプランに反映するために、センター方式を活用し本人本位になるように努めている。		今に満足せず、本人の立場に立って考えることのできるスタッフの育成を行っていく。(ケアプラン勉強会など)
			(外部評価) 入居時に利用者やご家族から生活の希望を聴き取り、情報シートにて把握されている。又、職員は、日々の関わりの中からさらに探り、情報を蓄積していくようにされている。		
34		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人や家族から聞き取り、情報シートに記入することで、全スタッフが把握できるようにしている。		
35		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 日々の記録(個人別記録やバイタルチェック表、申し送りノート)を見たり、センター方式のできることできないことシートを活用して、把握するようにしている。		日々変化していくものなので、きちんと現状を把握していくために、「一ヶ月ごとの経過記録」の見直しの徹底を図る。
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 本人や家族にも意見を聞き、担当者がプランを立てたものを基にカンファレンスを行い、スタッフの意見を出し合いケアプランを作成している。		遠方の家族の思いをケアプランに反映させるために、利用者を身近に感じてもらえるような工夫をしたい。
			(外部評価) ご本人の思いとご家族の意見等を踏まえ、職員で話し合い、介護計画を作成されている。1週間の目標を決め、日々かかわる職員の気付きや発見、成果が毎日記録されている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
37	16	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 期間に応じて見直しができている。 また、変化のあった時には、新たに作成している。		
			(外部評価) 3ヶ月ごとに計画の見直しをされる。入院や体調の変化等あった場合は、その都度見直しをされている。		
38		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個人別記録や申し送りノートに記入し、共有できている。また、1wごとのケアの実践目標を決め、毎日その結果や気づきなどを、管理者に申し送りケアの見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 買い物や通院などの要望はきちんと聞き、スタッフが同行している。 また、体に異常があった時などは訪問看護ステーションに連絡を取ったり、必要な介護用品、福祉用具の注文なども事務所を通し対応している。		
			(外部評価) 事業所は、ショートステイを8月から開始する予定となっていた。行きたいところへの外出等、利用者個々の希望に、柔軟に対応されている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 年2回の避難訓練には、消防署から来てもらい、緊急時の処置の方法など指導してもらっている。また、ボランティアの利用も時折行っている。		ボランティア募集の広告を関係機関の掲示板に」のせれるように作成する。
41		他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 知識不足で実施できていない。		地域包括支援センター主催の連絡会には必ず出席するようにし、情報交換もかねた交流も含め、他の関係事業者との関係作りを図る。
42		地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 地域運営会議には参加してもらっている。		今後、こういったケースが出てきても分からないことのないよう、勉強し、協力体制を日頃からとっておく。
43	18	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 入居時にかかりつけ医の希望を聞くようにしている。また、定期往診時には状態を細かく報告し、異変時、主治医と家族双方の意見を聞き、対応している。 (外部評価) ご家族が通院に同行される場合には、事業所から主治医に手紙を書き、ご本人の日頃の状態等を伝えるようにされている。ご家族が同行できないような場合には職員が同行し、主治医と状態について話し合っておられる。		
44		認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 主治医への定期的な状態報告の際には、身体のことだけではなく、精神的变化も含め細かく伝えるようにしている。また、必要に応じて専門の医療機関への受診、相談も行っている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
45		看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 訪問看護ステーションから1wに1回健康チェックに来てもらい、相談や助言をしてもらっている。 また、利用者の異変に対して24時間いつでも連絡が取れる体制ができている。		
46		早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) こまめに入院先へ出向き、様子を聞くなどしている。 また、退院前には家族も含め、カンファレンスをもっている。		
47	19	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 入居の際に、家族の考えを聞くようにしている。 また、そうなった時には、かかりつけ医や訪問看護ステーション、家族等を交えて話し合う機会をもっている。 (外部評価) 入居時に、重度化や終末期の事業所での対応方針等について、説明をされている。その後、実際に体調に変化があったような時に話し合うようにされている。		
48		重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 利用者の変化や様子等、ファックスや電話を利用してこまめに相談、連絡を取っている。 また、必要な知識を身につける為、看護師に相談したり、資料を踏まえ勉強している。		医療面においては、スタッフも不安や知識不足があるので、皆で勉強会を重ねていく。
49		住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 今までの生活の様子や過ごし方など、細かく申し送り、カンファレンスを行い、リスクの軽減を図っている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価)		
			親しみやすく、丁寧な言葉遣いを心掛けている。個人情報やスタッフルームで取り扱い、部外者の立ち入りのない様に努めている。		
			(外部評価)		
			調査訪問時、職員は、利用者に対してさりげなく丁寧に言葉掛けをされていた。個人情報書類はスタッフルームに保管され、FAX等を使用する場合、個人情報については利用者のイニシャルでやり取りをされている。		
51		利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価)		
			急いで返事を求めず、ゆっくりと関わり、多くの中から選択が難しい時は、ある程度の選択肢を出すなどの工夫をし、本人が決定できる場面作りに工夫している。		
52	21	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価)		
			今までの生活スタイルを大切にしながら、本人の希望を聞き支援している。しかし、ずっと同じ場所から動こうとされない人に対しては、スタッフペースになってしまう場面もある。		一人ひとり支援のあり方を考えながら、その人らしさを保てるよう、また、変化も出てくる中で、定期的に見直していく。
			(外部評価)		
			ユニットごとに利用者が集まり、日常生活について話し合う「よりあい」が月1回くらい行われている。事業所内のことや外出等の希望について意見が出され、職員の取組みに反映されている。		利用者個々のその人らしいペースについて、事業所では「この人はこういう人だと思っても、違うかもしれない」という観点から支援に努めておられ、職員は、利用者個々のその人らしさをさらに探り、支援していることとされていた。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) なじみの美容室へ行ったり、行けない方には出張してもらっている。また、外出時には、特におしゃれに気を配れるようにしている。(いつも着ないよそ行きの服、バックなど)		
54	22	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 買い物、調理、盛り付け、配膳、下膳、食器洗い、片付けまでの行程で利用者と共にいき、味付けまでしてもらったこともある。また、庭で取れた野菜や近所で採った山菜など、旬の食材をできるだけ使うよう意識している。 (外部評価) 食事の準備から片付けまで、利用者と職員が協力し合って行われていた。利用者同士、やりたい作業が重なるような場合には、職員が間に入って気配りをされていた。時々、外食にも出かけ楽しんでおられる。		
55		本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 朝食を、パンとごはんのどちらかをえらべるようにしている。飲み物なども、本人の好みに合わせてできる限り自由に選んでもらっている。1wに1回宅配パン屋さんが来てもらっているが、それを楽しみに待っている方も多い。		
56		気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) バイタルチェック表にこまかく記入し、パターンを知り声かけ、見守り等それぞれに合った支援を行っている。 また、トイレの場所が分かるように札を下げて、スムーズに排泄できるようにしている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	23	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価)		
			声をかけて、できる限り入りたい時に入れるように支援している。ただ、男性スタッフの時には介助に入れないため、こちらのシフトの都合で入ってもらう場合もある。		利用者の希望や要望を尊重し、なるべく迷惑をかけないようシフトを配慮していく。
			(外部評価)		
			入浴を嫌がられる利用者に対しては、ご本人にとって関係性が深まっている職員がお誘いしたり、時に、かかりつけ医の協力を得て声をかけていただく等されている。		
58		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価)		
			自分の布団だけでなく、皆の中でも安心して休めるよう、ソファやフリールームなどを活用し休めるように支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価)		
			犬の世話や家事、畑、花壇作りなど周辺の環境を利用して、一人ひとりの特性や好みをみながら、役割が持てるように支援している。		まだ隠された力が十分に発揮されているとは言い難いので、もっと色んなアイデアや興味のそそるようなことを探していきたい。
			(外部評価)		
			作業の過程にもご本人の好き嫌いや得意不得意、能力等、違いがあり、職員はそれらを見極め、支援しておられる。ご自分の食事をペットの犬に分けてやる方や毎日、新聞を誰より先に取りに行く方等もおられる。		
60		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価)		
			希望に応じて自分で財布(おこづかい)を持っている方が多い。声をかけたり、見守りの中でもなるべく自由に買い物ができるような環境づくりに努めている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
61	25	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価)		
			なるべくその日の朝に、会話の中でさりげなく聞き出したり、言えない方や決めれない方にはこちらから提案したりもしている。		以前に比べ、外に出ることも多くはなっているが、腰の重い方への支援や楽しみある外出など新たに提案していきたい。
			(外部評価)		
			事業所の周りの自然を楽しみながら、毎日散歩に出かけておられる。歩くと30分位かかる場所にあるスーパーに、買い物に出かける方もおられる。		
62		普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価)		
			お花見や、運動会、夏祭りなど外出先でも家族と共に過ごせる機会を作っている。		もう少し個別に出かけたり、ちょっと遠出の日帰り旅行なども計画していきたい。
63		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価)		
			年賀状や手紙を書いたり、電話をこちらからかける声かけをしたりと、遠慮して言えないのではと常に考え、支援している。		継続してタイミングを外さず行えるよう配慮していく。
64		家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価)		
			スタッフの家族への接し方については、十分配慮し気持ちよく過ごしてもらえるように、邪魔にならない程度にコミュニケーションを図っている。		全スタッフが配慮できているとは言い難いので、マネーの面でも入社時等に指導していきたい。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 勉強会を行っているが、参加できていないスタッフもいる。日常のケアの中でも意識はあるが、全スタッフがきちんと理解が出来ているかは言い難い。		勉強会を徹底し、全スタッフがまずは理解できるように努めていく。そして、現在のケアを見直し追求していく姿勢を養っていきたい。
66	26	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 玄関は基本的に必要最低限の施錠をしているのみである。(夜22時～朝5時ごろまで) このことはスタッフも理解できている。 (外部評価) 日中玄関は施錠されておらず、利用者は、お好きな時間に庭を散策されたり、周辺を散歩されている。		
67		利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 日中は、スタッフ間で声をかけ合って安全に留意し、見守りをしている。 また、夜間はその利用者の状態に合わせ、30分から1時間ごとの巡回をしている。		
68		注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 入居時には持ってきた物品の確認を行い、ナイフやハサミ、爪切りなどは、家族と相談し居室におくようにしている。また、その後の使い方には十分に注意し見守っている。		
69		事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 年に2回の防災訓練を3月と9月に行っている。服薬ミスにおいては、何重にもチェック、確認し、間違いの起きないように取り組んでいる。 また、緊急時マニュアルを作成し、新人スタッフには随時説明している。		夜間の防災マニュアルを作成し、少人数での避難の支援方法を考えたい。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 定期的には行っていないが、年1回は講習があり、スタッフは順に参加している。		講習を受けたスタッフが口頭で伝えるだけでなく、他のスタッフにも分かりやすく見せながら研修を行っていく。
71	27	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 地域運営推進会議にて声をかけたり、日頃から地域の人と顔なじみの関係が保てるように働きかけている。 (外部評価) 災害時には、利用者、職員は庭に集合して、人数確認後に西野公園に避難する、ということが徹底されている。避難訓練時、エレベーターが使えないことを想定し、非常階段から避難する訓練を行った。		地域の方達との協力体制について、さらに、話し合っていられることが期待される。
72		リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 入居時に、転倒のリスクがあるグループホームでの暮らしについては説明している。 また、状態が変わりごとに、必要に応じて家族に主治医からも今後予測されることも含め、説明してもらっている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 日々バイタルチェック表をつけているが、それだけに頼ることなく、小さな変化も申し送りノートに記入し、情報を共有している。その中で、リーダーが判断し、医師や看護師に報告している。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
74		服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) スタッフそれぞれが医療ファイルに目を通し、サインをし、確認するようにしている。処方箋ファイルもスタッフルームに保管し、いつでも見れるようにしている。また、ミーティングで薬に対する重要性、支援のあり方について、見直し、話し合いを行っている。		スタッフの入れ替わりもあるので、新人スタッフには特に個人的に説明し、理解してもらえよう徹底していく。
75		便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 薬に頼るだけでなく、栄養面や運動など多方面から工夫、改善し支援している。関連グループ内で排泄委員会を立ち上げ、様々な排泄に関することを勉強し、便秘についても取り組んだ。食物繊維の多い食材の利用や寒天の利用が日常的に行えている。		飲み物などパターン化してきつつあるので、飽きのこないよう色々なことにも取り組んでいきたい。
76		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 声かけをしているが、今までの生活習慣もあり、毎食後はできていない方もいる。入れ歯を磨く時には、なるべく自分で磨いてもらえるよう、磨き残しのないよう見守り確認している。時には、スタッフが一緒に磨くなどの工夫もしている。		できれば毎食後はみがきする習慣をもてるように工夫していきたい。
77	28	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) バイタルチェック表で一人ひとりの食事や水分の量を把握している。水分が少ない方には、申し送っていき、好みの食べ物やのど越しのいいゼリーや果物を出すなど工夫している。 (外部評価) 毎日、食事や水分の摂取量が記録され、利用者個々の変化がいち早く分かるようにされている。		フルーツ入り寒天、ゼラチンゼリー、プリンなどを常備して作ることを継続し、レパートリーも今後増やしていきたい。また、食欲がない時や体調が悪くて食べれない時など、メニューの工夫を行い、必要量が確保できるよう留意していく。
78		感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	(自己評価) マニュアルを作成しており、利用者の状況に応じ追加している。夜間には、手すりや床、トイレなどの消毒を行っている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
79		<p>食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>	<p>(自己評価) 調理前の手洗いを徹底している。買い物は新鮮な食材を手に入れるため、2日に1回を行っている。夜間には、調理器具、ふきんなどの消毒を行っている。</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり</p>					
80		<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 庭には、畑を作ったり花を植えたり、いつでも休めるように椅子やテーブルを置いている。天気の良い日には玄関の戸を開け、開放的で出入りしやすいような雰囲気づくりに工夫している。</p>		
81	29	<p>居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 季節の飾りや花を生けたりして、自然で殺風景にならないように工夫している。フロアの椅子には防音のための靴下を履かせ、1階になるべく響かないよう配慮している。</p> <p>(外部評価) 利用者、職員で作った作品が多く飾られていた。ゆったりとしたソファからベランダ越しに山が眺められる。玄関の外や中に椅子が設置されており、男性利用者が座る場所となっていた。</p>		
82		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) その時々を利用者の状態に応じ、一ヶ所に皆の視線が集中しないように、ソファの配置に配慮している。</p>		<p>共用空間をもっと幅広く活用するために、フリールームに畳をしいているので、いつでも自在に入りくつるようになるにもっと工夫したい。</p>

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	30	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)		
			入居時には馴染みの物を持ってきてもらい、なるべく違和感の生じないよう、安心して過ごしてもらえるよう心掛けている。		
			(外部評価)		
			入居後、月日が経つとそれぞれに違う雰囲気、個性が伺える居室となっていた。お花や写真が飾られていた。		
84		換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価)		
			冬場は乾燥しないようフロアには加湿器を置いている。また、居室には一人ひとりの状態に合わせて、濡れタオルや加湿器を置いて温度と湿度の調節に配慮している。 それぞれの空間での換気の徹底も図っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価)		
			ベランダに出る少しの段差に気づきやすいようにマットを置いたり、浴室には、取り外しの可能な手すりを用意している。それにより、安心して一人でも入浴できるようになった方もいる。		身体の状況の変化していく中で、常に気を配り安全かどうか、どうしたらやりやすいかを見極めて皆で相談していく必要がある。
86		わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価)		
			できること、できないことシートをつけて一人ひとりの力の理解を深め、ケアに生かしている。トイレや浴室の場所、各居室には札をかけて混乱の少ないよう分かりやすくしている。		定期的に見直し、スタッフ間の意識のズレを解消していく。
87		建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価)		
			ベランダは洗濯物を干すだけの空間になっている。縁台や椅子も置いているが、日常的に利用できていない。 また、庭では季節の良い暖かい日に、1階の方とおやつを食べたり、ランチしたりといったこともある。		ベランダをもう少し有効に活用していく工夫がある。 (ちょっとした栽培など) 庭にも日常的に出て、花や野菜作りなど活動できるように取り組んでいく。

. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価) ② 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	利用者の言葉や表情などを観察し、スタッフ同士で日々の変化を伝えあってはいるが、精神的な奥深さの点で本心がなかなかつかめない場合もある。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価) ① 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	食事中や食後、ティタイムの時など、フロアや庭先などでソファや椅子に座りのんびりした時間を一緒に過ごせていると思う。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価) ③ 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	自分の習慣や趣味に時間をゆっくり使っている方もいるが、スタッフや他の方に気を遣い部屋に入ったり、庭に出る方もいるのではないかと思います。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (自己評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	好きな事(散歩やドライブ、買い物、お寺めぐり、おやつ作りなど)と一緒にすることで笑顔や活気がある表情が見られている。しかし、何事にも興味を示されずスタッフが声かけし仕方ないかといった感じの時もあるのではないかと。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己評価) ③ 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	実際、自分から希望を言える方は少ない。行きたいところを言えない方や腰の重い方などには、スタッフが立案、その中から選んでもらったり、好みに沿って支援している。車が一台なので1階と相談しながら支援している。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	かかりつけ医の定期的な往診や健康診断、訪問看護ステーションにより週1回の健康地チェックを行っている。また、必要な時にはすぐに受診できるようにしている。必要なとき、また不安な時は医師や家族と話し合う機会ももっている。
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (自己評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	要望にはできるだけ早く応じられるように支援している。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (自己評価) ② 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	管理者、リーダーを中心に日頃の会話や電話、手紙で思いを理解しようと関係作りに努めている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価) ③ たまに 4 ほとんどない	近所の方が折り紙を教えてくれたり、野菜を持ってきたり、行事に参加して下さっている。また、近所の子供たちが犬を見に遊びに来てくれたりすることもある。

項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (自己評価) ② ② ② ② 1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない	散歩していて地域の方からも挨拶してくれるようになったり、笑顔で返ってきたりという場面が増えてきており、なじみの顔になりつつあると思う。
98	職員は、生き生きと働いている (自己評価) ③ ③ ③ ③ 1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	笑顔もあり、コミュニケーションもとれているが、精神的、肉体的にも疲れているように思う。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う (自己評価) ③ ③ ③ ③ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	本音のところは分からない方も多く、遠慮や家族のためにと感じて生活している方もいると思う。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う (自己評価) ③ ③ ③ ③ 1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	家族会や面会時の会話の中でそういった声をいただくこともあるが、常に冷静に自分たちのしていることを見つめ、今に満足せず取り組んでいく必要がある。。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
 (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

まずは、自然豊かな環境がまわりに広がっており、田んぼや公園、四季を感じることでできる木々や花々がいっぱいあります。松山でも田舎の匂いが残っている澄んだ空気がここにはあります。ホームの庭の畑で野菜を育てた成長を喜び、皆で分け合って食べたり、花壇には季節の花々を植え、美しいという感情も大切に、さらに周囲の野山で採れた山菜で楽しく料理しおふくろの味を味わい、人間が当たり前に感じることでできるものがいっぱいあります。皆が毎日あれやこれやと知恵を出し合い、ときには白熱しながら、時にのんびり、時にバタバタ生活しております。

外に行くのが好きな方が多いので、出かけられる時はよく出かけています。近くの散歩から時にはリクエストがあれば遠出をしたり・・・お寺めぐりや海にじゃこ天食べに、温泉や、芝居観劇などなど数知れず・・・「とにかく走れ!!」と言われノンストップにドライブしたことも(笑)

ご利用者もお一人ひとり役割をもち、一緒に生活していく中で自然に助け合いの関係ができてきます。18人の様々なドラマが見え隠れ・・・時には笑い、泣いては怒って喜んで・・・居れば居るほど味のあるホームにしていきたいと思っております。支えてくれる皆様を大切に!!